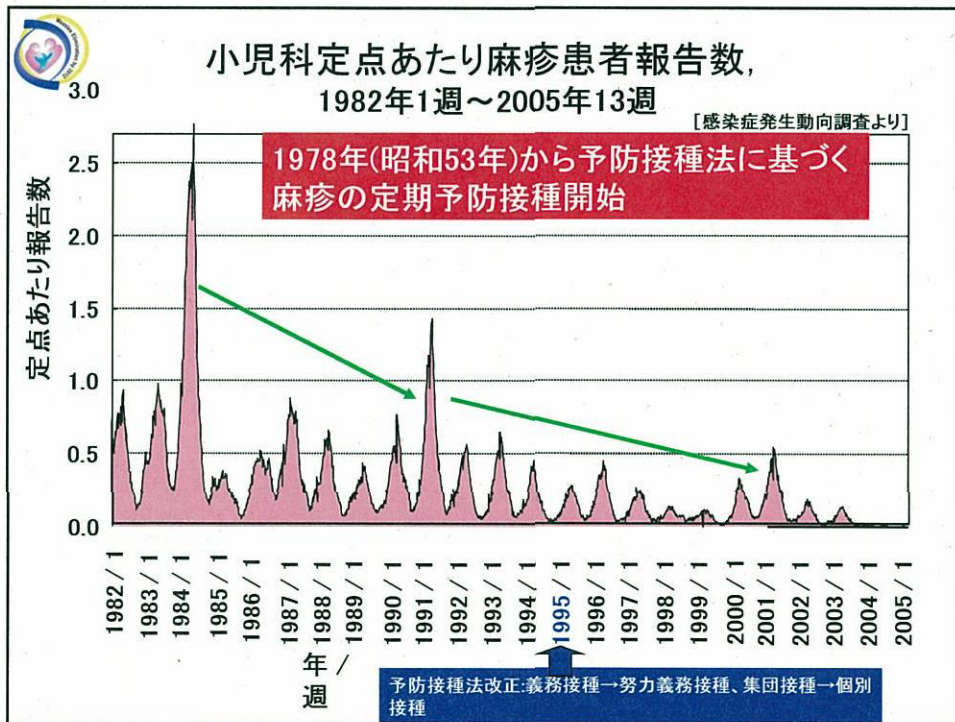




第3回麻疹対策推進会議
平成21年9月9日(水)

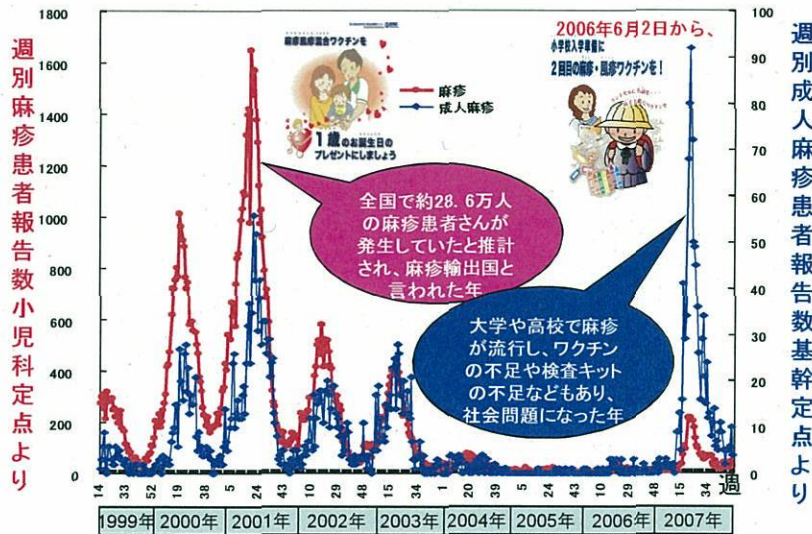
麻疹の発生状況

国立感染症研究所・麻疹対策技術支援チーム



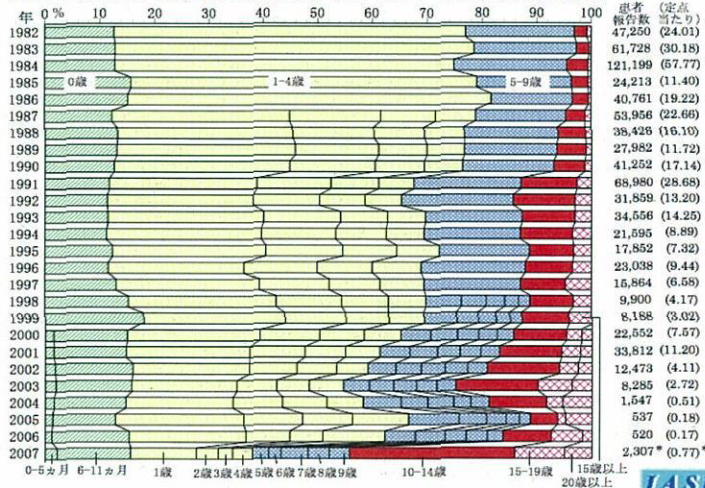
麻疹/成人麻疹患者報告数, 1999年14週～2007年52週

(感染症発生動向調査より)



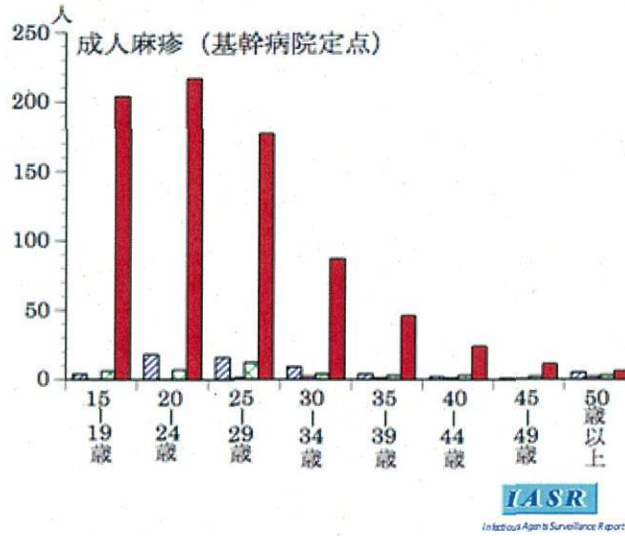
小児科定点から報告された麻疹患者年齢分布 1982年～2007年

図4. 麻疹患者の年齢分布(小児科定点), 1982～2007年 (感染症発生動向調査)

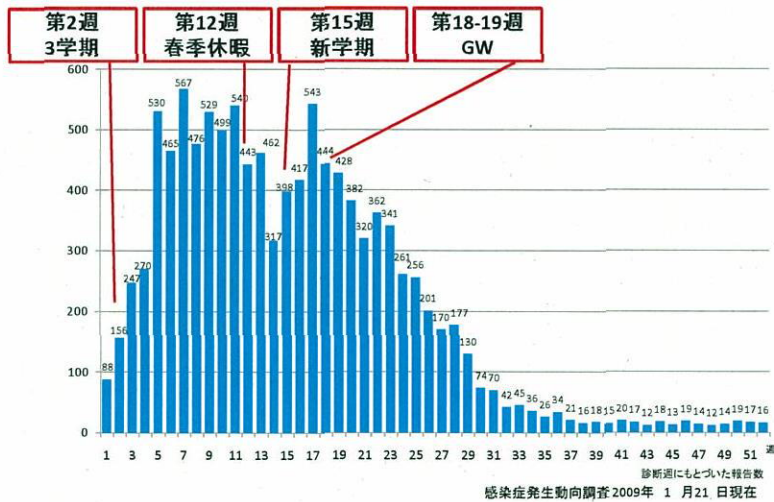




成人麻疹患者の年齢別報告数、2004-2007年 (感染症発生動向調査)



週別麻疹報告数 (n=11,007) 2008年第1-52週



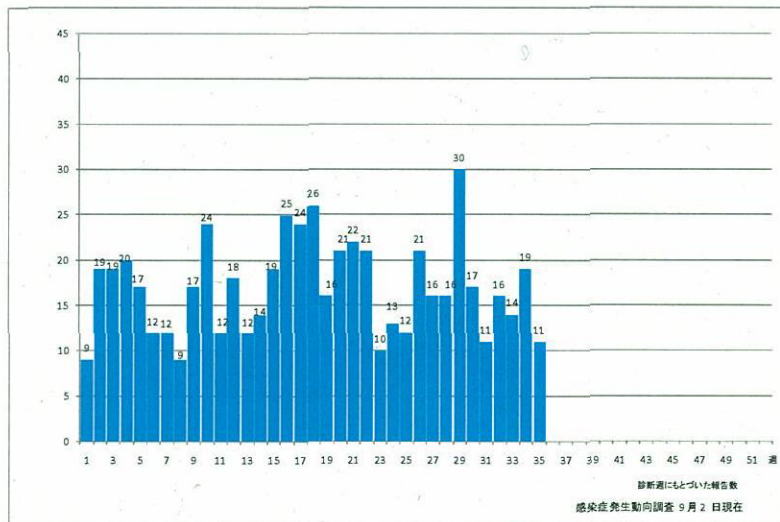


脳炎合併症の報告があった麻しん症例 (n=9) 2008年第1-52週

診断週	感染地域	報告自治体	性別	年齢	病型	接種歴	転帰
1 第4週	北海道	北海道	女	10代	臨床診断例	無	軽快
2 第4週	神奈川県	神奈川県	男	20代	検査診断例	無	軽快
3 第5週	神奈川県	神奈川県	男	30代	臨床診断例	無	軽快
4 第9週	北海道	北海道	女	20代	検査診断例	無	
5 第16週	千葉県	東京都	女	40代	修飾麻しん (検査診断例)	不明	
6 第26週	神奈川県	神奈川県	男	20代	検査診断例	1回 (1歳時、親の記憶)	高次脳機能障害
7 第29週	神奈川県	神奈川県	男	10代	検査診断例	無	
8 第31週	東京都	東京都	男	40代	修飾麻しん (検査診断例)	不明	
9 第44週	千葉県	千葉県	女	30代	修飾麻しん (検査診断例)	不明	

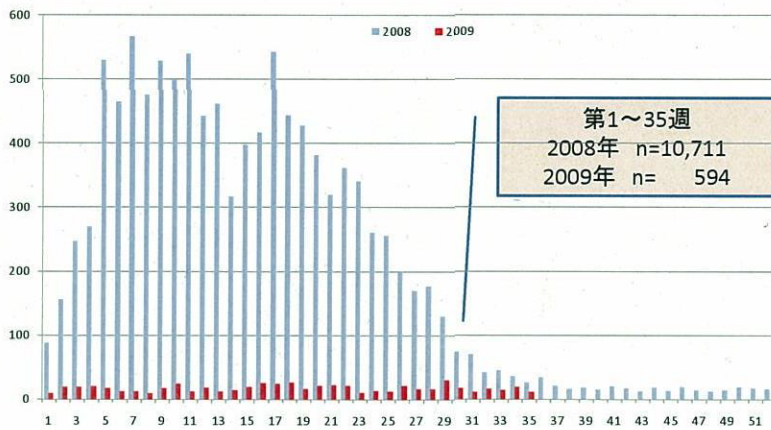


週別麻しん累積報告数 2009年第1-35週 (n=594)

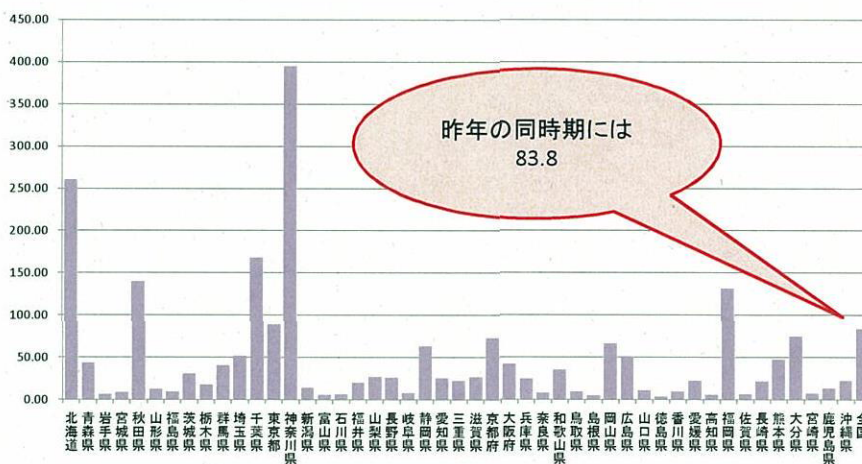




週別麻しん報告数の比較 2008、2009年

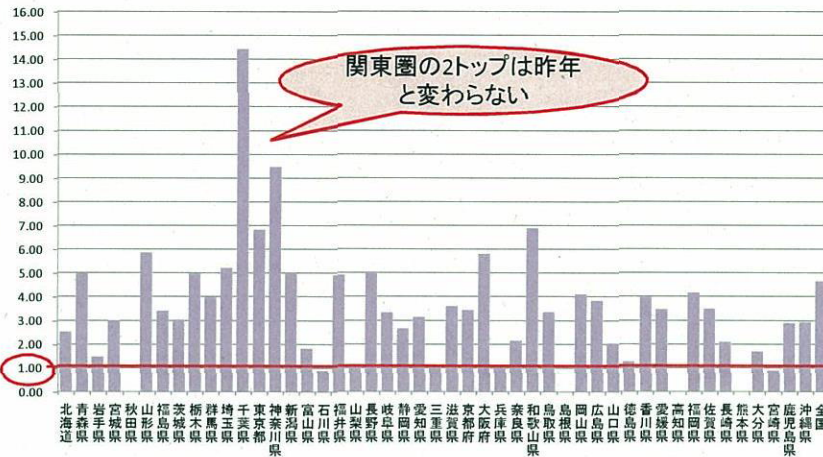


都道府県別人口百万対麻しん報告数 2008年第1-35週

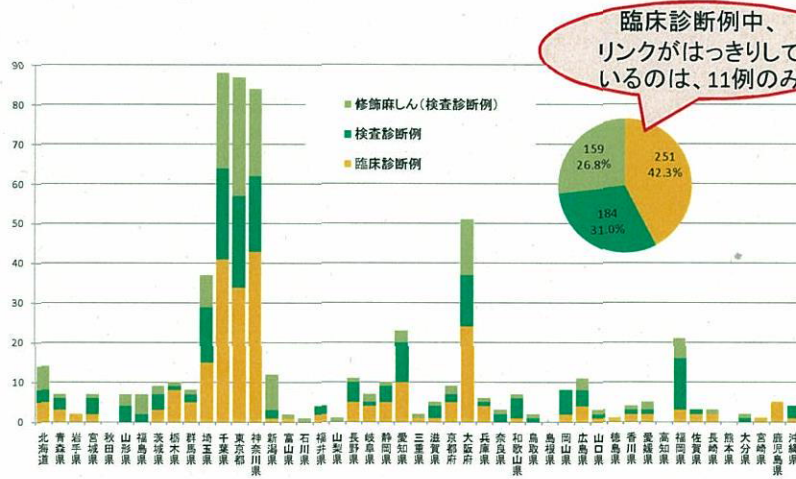




都道府県別人口百万対麻しん報告数 2009年第1-35週



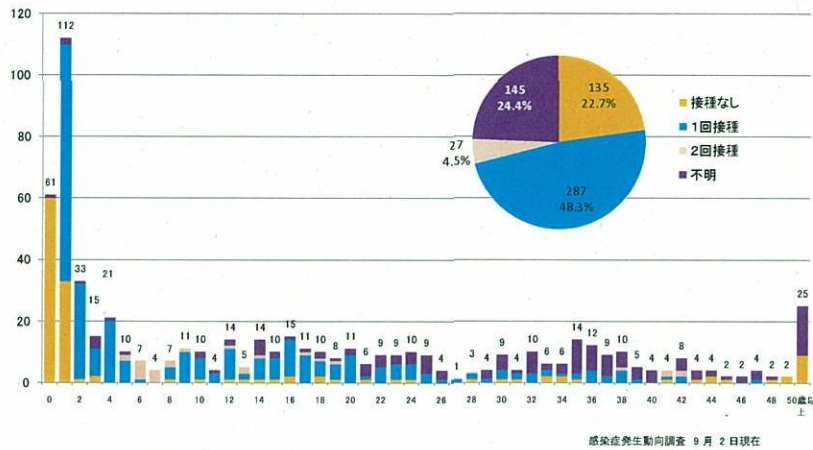
都道府県別病型別麻しん報告数 2009年第1-35週(n=594)



感染症発生動向調査 9月2日現在



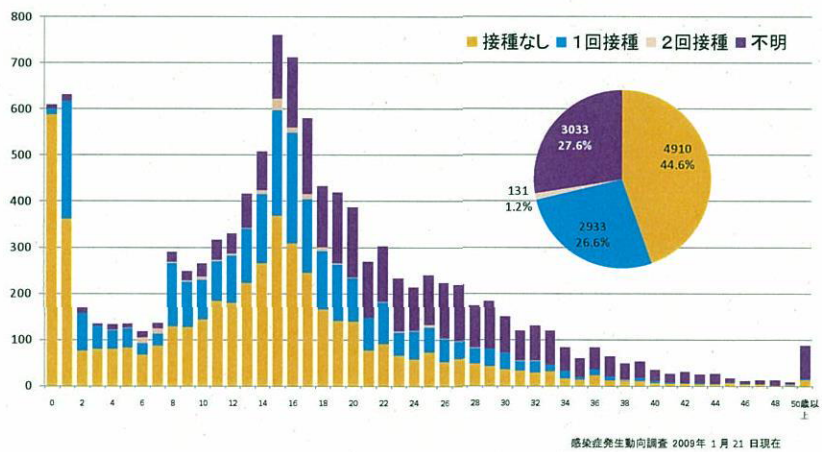
年齢別接種歴別麻疹累積報告数 (n=594) 2009年第1-35週



感染症発生動向調査 9月2日現在



年齢別接種歴別麻疹累積報告数 (n=11,007) 2008年第1-52週



感染症発生動向調査 2009年1月21日現在

まとめ

- 日本の麻疹発生状況は、麻疹の定期予防接種が導入されて以後は、減少傾向にあった。
- 以前は乳幼児を中心とした流行だったが、2007年は10代後半から20代を中心とする年代で、大きな流行を認めた。
- 全数報告となった2008年には年間で、11,007例が報告されたが、今年（2009年）は35週現在594例と大幅に減少している。
- 年齢別報告数を昨年と比較すると、今年（2009年）は10代を中心とした年代の割合が激減した。
- 今年のような発生状況では、臨床症状のみから麻疹と診断することはしばしば困難である。現在、全国の衛研で麻疹のPCR検査を行える体制が整っているため、保健所、衛研の協力の下、検査診断で全例を確実に診断することが望まれる。